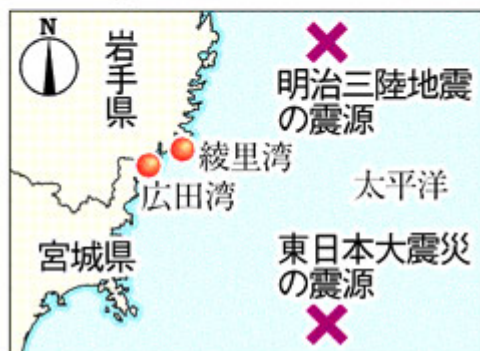


特集

津波の高さ湾の向きで差 東北大講師「相関関係示す典型」



広田半島で隔てられている二つの湾から押し寄せた津波が合流し、大きな被害が出た岩手県陸前高田市では、広田湾側から入った津波と、只出(ただい)漁港側から入った津波の高さが大きく異なっていた。住民らの証言では、広田湾側からの津波は高さ10メートル超に達したのに対し、只出漁港からの津波は3～5メートル程度。専門家は津波の威力が、震源の位置と湾口の向きによって大きく左右される典型例とみている。

広田湾側と只出漁港側の双方から津波が押し寄せ、合流した陸前高田市小友町地区の新田集落。

町内会長の及川秀七さん(73)は「広田湾も只出漁港も、すぐ隣の湾なのに、それぞれの方向から入ってきた津波は、規模や迫力がまったく違っていた。別の地震の津波のようだった」と証言。広田湾側からの津波は高さ10メートルを超えていたが、只出漁港側からの津波は3メートル程度だったという。

東北大災害制御研究センター非常勤講師の阿部郁男さん(43)は「津波の威力は地震の規模だけではなく、震源と湾口の位置関係で大きく変わり、今回の津波でも、その傾向は顕著だ」と指摘する。

東日本大震災の震源は牡鹿半島東南東の三陸沖で、広田湾からは南東方向。広田湾の湾口はちょうど南東に開いていて、震源からの津波が直接伝わった。一方、只出漁港側は東向きで、津波は広田半島にぶつかり、広田湾の津波よりも小さくなったとみられる。

阿部さんによると、大船渡市綾里白浜地区は明治三陸大津波(1896年)で、国内観測史上最高の波高38.2メートルを記録した。この時の震源は釜石東方の三陸沖で、真東に湾口が開いた綾里湾には津波の威力が減殺されずに達したという。

今回の東日本大震災で綾里白浜地区に到来した津波は25メートル前後。明治三陸大津波を下回り、集落の被害も少なかった。震源の宮城県沖を発した津波の一部が綾里半島に吸収された可能性が大きいという。

阿部さんは「広田湾に限っては、今回の津波の威力は明治三陸大津波をはるかに上回った。震源と湾口の位置関係によって、津波被害の大きさが変わる典型例だ」と話している。

(中村洋介)

2011年04月04日月曜日

Copyright © The Kahoku Shimpō